



## 生徒よし、先生よし、学校よし

学校において1年の中で最も大切な日、それは入学式であり、卒業式であると思います。新たな出会いや旅立ちをみんなで祝福し、新しい世界への夢や希望が持てるようにする儀式だからです。また、体育祭や文化祭（合唱コンクール）も、それまでの練習の成果を保護者や地域の方々に披露する大切な1日です。互いに努力を認めながらみんなで協力して、よりよいものを創り出し、互いに発表することで、自他の良さを見つけ合う喜びを感じ得ることもできます。

そして、もう一つの大切な日として「学校訪問」があります。これは、年に1回、香川県教育委員会西部教育事務所及び三豊市教育委員会の方が、生徒や先生方の学習の様子などを視察する日です。特に、教育事務所の先生方は、1年間をかけて、香川県西部のすべての学校を訪問するので、他の学校と比べられます。

昨日、6月22日は学校訪問の日でした。詫間中学校がよくなってきていること（新志新風）をアピールする絶好のチャンスでした。

午前中は4時間をかけて、すべての先生方の授業を見て回られました。私も一緒に各教室を見て回りましたが、蒸し暑いにもかかわらず、真剣なまなざしで共に学んでいる生徒と先生方の姿が印象的でした。

そして、午後からは特定授業として、3つのクラスの授業を、学年団の先生方と一緒に参観しました。

1年1組は、藤井先生と栄養教諭の大矢先生の2人で、「心も体もスッキリ！パワー全開になる朝食を考えよう」というテーマの授業でした。生徒たちは、朝食の大切さを理解するとともに、バランスのとれた朝食をとるために、自分でできることは自分でしょうという意欲を持つことができました。

2年3組は、森先生と養護教諭の綾先生の2人で、男女交際について考えました。ディベート形式の討論を取り入れたり、「男女のかかわり」のVTRを見たりしながら、異性の心理について理解し、お互いを尊重し合う行動の大切さを学びました。これまでの男女関係で気づかなかったことを感じ取ったと思います。

3年2組は、南先生が、三豊市人権教育教材「龍平の未来」の資料を使って、エイズ患者やHIV感染者と共に生きる社会において、自分にできることを具体的に考えました。エイズは恐ろしい病気ですが、それよりも正しい知識を知らずにエイズ患者や感染者を差別することの方がもっと恐ろしいことを学びました。

生徒たちが返った後、教育委員会の方々から多くのご指導を受けたり、感想をお聞きしたりしたので、その一部を紹介します。

- ◆ 生徒たちの表情が明るく、生き生きとしている姿がすばらしい。廊下ですれ違ったときもさわやかなあいさつをしてくれ、とても気持ちよかった。
- ◆ 授業の中で、生徒の発言の場面が工夫され、積極的な話し合いができていたことがすばらしい。特に、自分自身をしっかりと語ることができる生徒がいることに感心した。これは、生徒同士、先生と生徒の信頼関係ができている証である。
- ◆ 学校通信で「心がそろった風景」として、くつや自転車がそろっている場面が掲載されていたが、その記事からも、また本日の生徒の姿からも、安定と着実な前進が見られる学校であると強く感じた。
- ◆ 先生方がそれぞれのポジション（役割）を理解し、共通実践ができていなど、チームワークのよさを感じた。先生方がみんなでやろうとしている成果が子どもたちの姿に返っていると思う。

生徒にとっても、そして先生方にとっても、1年間で最も緊張する日だったと言えるかもしれません。それだけに、見ていただく時間はわずかでしたが、その準備にかなりの時間を費やしました。また、授業だけでなく、教室や廊下の美化など、環境づくりにも気を配ったおかげで学校もきれいになりました。

全校生徒311名、先生方35名、みんなの心がそろった1日だったと思います。そしてこれからも、新しい志で新しい風を吹かせていきたいと思っています。

